



谷 義樹

一、下水道事業再評価結果について 二、過去の一般質問（有機農業）に 関係して

① 下水道事業再評価 結果について

問 再評価委員会では、算定式に問題があるといわれているが？

答 算定式では、合併処理浄化槽が普及する中、単独浄化槽での比較をする等、やや現状になじまない部分がある。

問 そんな中で出された、再評価委員会の意見具申を、どう受け止めるか？

答 国のマニュアルに基づく評価で事業継続となったが、答申には、町の実情や合併処理浄化槽の設置状況等を踏まえ検討されたいという、意見・要望も書かれている。この意見具申を尊重して、対応を図っていききたい。

問 再評価を受け、生活排水処理基本計画の見直しをすることになるが、今後の予定は？

答 平成21年度に、下水道のマスタープラン、並びに生活排水処理計画の見直しを実施していく。

問 その中では、地域毎の年次計画が示せるか？

答 計画をつくる前段で、各地区の考えを聞き、精査をする中で、地区計画を構築していきたい。

問 年間に必要な、下水道と農業集落排水の経費は？

答 概算で、赤字の繰り出しに約1億、起債償還で約1.6億となっている。

問 見通しでは、平成25年度で財政収支が赤字になる。このまま下水事業を継続しても大丈夫か？

答 財政的な裏付けのある年次計画が示せるか？

答 財政の許す範囲というところで、年間1億ぐらいを目途に、ほかの歳出との調整をとりながら、下水事業を進めていく。

② 過去の一般質問（有機農業）に 関係して

問 11月には浄るりシアターで大阪北部有機農業研修会が開かれ、12月には能勢町の有機農業推進協議会（仮称）の第一回会合が開かれた。次回は行政からも出席して頂けるか？

答 有機農業推進の法律が制定され、都道府県の推進計画づくりが急がれている。情報をいただければ参加して、研修・推進に務めたい。

問 能勢町内にも、積極的に有機農業に取り組んでいる方がおられる。一度その農場を見学されてはどうか？

答 先進地の取り組みや背景等を知るため、視察に行かせていただきたい。

一 般 質 問



原田 健志

一、農業の将来像について 二、消防団のこれからのあり方について

問 能勢の農業の将来像について、どのようにイメージしておられるか？

答 農業は能勢の基幹産業である、したがって農業の振興は、町の活性化におおいに寄与するものであると思う。一層、農業の振興に力を傾注していきたいと考えている。

問 能勢町のもつブランドイメージについて。

答 能勢のイメージは、能勢にしかない一つのブランドとしておおいに売り出すべきと思う。

問 能勢の将来に農業はもとより、能勢の将来にも大きな展望を開くものであると思う。

問 農業を生産の観点からだけでなく、環境保全の観点から関わり方について。

答 山林・中山間地域を保持していくとする中で、下流域の方から、田・山

を守るという理解のもと、国の森林環境税の実現に向けて寄与していきたいと思っている。

問 消防団のこれからのあり方について。

答 消防団の運営については、団長・団幹部の考えを尊重し、今まで同様十分協議をした中で、その時々の問題点及び将来的な方向性を見出したいと考えている。

問 消防団に対する広報の充実を求める。選択肢として広報担当の女性団員の加入や教育現場での取り組みについて。

答 女性消防団員の加入については、現時点においては時機尚早という判断で見合わせた経緯がある。学校では防火作品等で消防との関わりを取り組みはしているが、消防団そのものの活動を上手く十分に教えられていない部分もあると思う、今

後の課題として取り組んでいかねばならないと考える。今後能勢町の消防署のない中で、消防団の活躍等について子供達に伝えていく事も大事であると思う。

問 定員・班の見直し等の必要性について。

答 班の操法への状況等も懸念される、団幹部と相談して、現状の中で組織のあり方を考える必要はあると思う。

消防団の運営については、総務の危機管理の方で、早い時期から今後の対応についてやっていくよう指示していくと思う。今後とも、消防団については、能勢町としても、全面的に応援をしていかなければならない。またそれが責任であろうとも思っている。